

治療拠点機関に係る実績報告資料
(令和 5 年度)

学校法人昭和大学医学部精神医学講座教授
学校法人昭和大学附属烏山病院長

真田 建史

昭和大学附属烏山病院 ギャンブル障害への対応について

① 対応病棟を制限

- ・ ギャンブル依存症患者を6つある病棟のうち2つの病棟（スーパー救急・慢性期病棟）に集約（概ねスーパー救急病棟に5名以上、慢性期病棟に10名以上が入院）
- ・ これらの患者が先ゆく仲間の役割を担うことで、自助グループへの繋ぎや「仲間に相談する」場所を提供して、入院中から解毒のみでない回復をスタート
- ・ スーパー救急病棟の看護師を中心に、入院患者にもインタビューして、マニュアルを作成中（2024年7月配布予定）

② 自助グループへの積極的な参加を推進

- ・ 携帯電話がギャンブルの引き金になる事例も多いため、入院時に携帯電話は預かる。
- ・ 出来るだけ早くオンライン GA（ギャンブラーズ・アノニマス）に参加できるよう、ASK（アスク、NPO 法人）が行っている会（22時開始）やギャンブル問題を考える会（日曜日9時、21時）に他患者と一緒に参加
- ・ GAの説明は、すでに良さを実感している患者に依頼。初回参加者は敷居が高いため、病棟内で仲良くなった患者と一緒に行くよう促している。
- ・ フェローに参加して退院後の相談相手やスポンサーを見つけることを重要視しており、当日24時までに病棟に戻れば、消灯時間を過ぎた外出でも連日許可している。
- ・ ホーム・スポンサーを決めること、可能な限り多くの自助グループに参加することを勧めている。
- ・ 病棟内ではAA（アルコールリクス・アノニマス）からのメッセージもあり、それらも積極的に勧め、AA、NA（ナルコティクス・アノニマス）、AC（アダルトチルドレン）など12ステップグループへの参加から気づきを得ることも多い。

③ 民間団体との連携

- ・ ギャンブル依存症家族会を毎月第2金曜夜に当院で行い、有志の医療者も参加して、ギャンブル障害に関する家族支援の一般論、考え方などを共有している。また、困難事例では個人情報に配慮して、具体的な方策を考えている。
- ・ 毎月1回カハナ（アルコール・薬物・ギャンブル障害の回復施設）施設長や

グレイスロード（ギャンブル障害専門回復施設）施設長から適宜助言を頂いている。

- ・ グレイスロードとの連携では、医療を要する事例は当院のアディクション外来で対応している。
- ・ グレイスロード入寮者には当院の認知行動療法（第2・4金曜日に作業療法の一環として開催）に参加してもらい、回復施設やGAへの質問などに回答して頂いている。
- ・ 渋谷ダルクとも提携して、適時助言を頂いている。

④ 退院後のフォロー

- ・ 当院を退院後も、慢性期病棟で開催しているプログラムに引き続き参加可能として、病院との繋がりを維持
- ・ 外来での認知行動療法を継続
- ・ 入退院経験の先ゆく仲間として、ボランティアで助言を頂いている。

昭和大学附属烏山病院 東京都依存症治療拠点機関としての取組みについて

病 院 名： 昭和大学附属烏山病院

選定状況： 東京都依存症専門医療機関（薬物依存症、ギャンブル等依存症）
東京都依存症治療拠点機関（ギャンブル等依存症）

令和5年度活動報告

依存症対策地域支援事業の一環として、昭和大学附属烏山病院において、「東京都ギャンブル依存症支援者研修」を開催

- 【目 的】 ギャンブル依存症当事者、家族などに対応する機会のある者を対象とし、ギャンブル依存症に関する基礎的内容の習得を目指す
- 【対 象 者】 東京都の医療機関等においてギャンブル依存症患者の支援に関わる医療従事者
- 【開 催 日】 令和5年12月15日（金）9：00～17：05
令和5年12月16日（土）9：00～12：15 2日間
- 【開催形式】 対面及び web 会議システムによる講義ならびに模擬ケースを用いたグループワーク
- 【参加人数】 両日参加者 20名

令和6年度活動予定

令和6年度は依存症支援者研修を継続して行うとともに、連携会議、受診後の患者支援事業を新たに実施する予定

1. 依存症支援者研修事業（継続）
2. 医療機関向け連携会議運営事業（新規）
3. 受診後の患者支援事業（新規）